

(案)

資料2-3

令和 年 月 日

千葉市長 神谷俊一様

千葉市新基本計画審議会
会長 轟朝幸

スマートシティ推進ビジョンについて（答申案）

令和2年12月23日付2千政ス第14号により諮問のあった標記の件について、次のとおり答申します。

I 答申にあたって

千葉市は、98万市民が暮らす政令指定都市として発展を続けていますが、将来に目を向けると、少子高齢化による生産年齢人口の減少や、地球温暖化に伴う気候変動、ポストコロナ社会への対応等、重要な社会変化の到来が見込まれています。

これらの社会変化に対応するため、行政のみならず、あらゆる市民が協力し、知恵を出し合いながら持続可能なまちづくりを進めていくことが求められる中、近年、加速度的に進展しているAIやIoTを始めとするテクノロジーと千葉市がこれまで培ってきたICT活用のノウハウやコミュニティを最大限に活用し、市域全体の生活の質の向上を図り、地域とともに持続可能なまちづくりを進めるため、「(仮称)スマートシティ推進ビジョン」(以下、「推進ビジョン」という。)を策定することとしています。

推進ビジョンでは、千葉市のこれまでのICTを活用した取り組みや今後直面することが見込まれる重要な社会変化などの千葉市の状況と、加速度的に進展するテクノロジーや国の動向等の社会経済情勢を踏まえて、千葉市の目指すべきスマートシティの姿や実現に向けた取り組みの方向性、推進するための仕組みが示されています。

この推進ビジョンについて、「持続可能な地域社会と良質な市民生活の創出」に向けたスマートシティ推進の観点から、テクノロジーの状況・国の動向・本市の特性等を踏まえた取り組みの方向性を検討することを目的に、昨年12月23日の市長からの諮問を受け、有識者や各関係団体からの代表者及び市民等で構成される当審議会は、推進ビジョンに関する審議を行うべく、新たにスマートシティ部会を設置しました。

スマートシティ部会では、延べ4回にわたり、推進ビジョンや指標案の内容等について、集中的かつ幅広い議論を重ね、この度、本答申の提出に至りました。

本答申をもとに、推進ビジョンの内容が一層充実し、あらゆる市民がまちづくりに参画する契機となり、目指すべき姿の実現に向け、地域とともにスマートシティのまちづくりが推進されることを期待します。

II 審議の方法

千葉市新基本計画審議会スマートシティ部会は、令和4年3月に千葉市が策定予定の「(仮称)千葉市スマートシティ推進ビジョン」(以下、「推進ビジョン」という。)について、市より諮問を受け、審議を行ってきました。

審議の進め方として、諮問理由が「持続可能な地域社会と良質な市民生活の創出に向けたスマートシティ推進の観点から、テクノロジーの状況・国の動向・本市の特性等を踏まえた取組みの方向性を検討する必要があること」であること、また、令和3年第1回の審議において、市から、推進ビジョンの実現に向けて、地域ニーズや課題、対応策等を市民や事業者等と共有するための「取組項目の見える化」及びスマートシティの推進状況を把握・共有するための手段である「指標の設定」を推進ビジョンとは別に整理する旨の提案があり、部会として了承したことを踏まえ、スマートシティ部会の審議の論点を以下のとおり定めました。

- 推進ビジョン原案の策定趣旨、基本的な考え方、取組みの方向性、推進体制・推進手法、ロードマップの記載内容を確認し、これらがより良いものとなるよう考え方や方策等を提示すること

このため、推進ビジョンの審議においては、スマートシティ全般に関する専門的立場からの示唆等も行いつつ、これらを中心に審議を行ったところです。

【スマートシティ部会の開催状況】

第1回 令和2年12月23日

諮問、副部会長の選任、推進ビジョン骨子案の審議

第2回 令和3年5月31日

推進ビジョン原案(前半)の記載内容、取組項目・指標案の取扱いの審議

第3回 令和3年6月21日

推進ビジョン原案(後半)・指標案の記載内容の審議

第4回 令和3年7月20日

推進ビジョン原案(意見反映版)・答申(案)の審議

Ⅲ 審議の結果

今般の推進ビジョン原案については、千葉市の目指すスマートシティの姿や実現のための原則等の基本的な考え方を始め、取組みの方向性、推進するための仕組みとなる推進体制や推進手法など、スマートシティを推進していくために必要と考えられる事項については、概ね盛り込まれていることを確認しました。

スマートシティ部会の審議においては、推進ビジョンが果たすべき役割の整理を行い、本ビジョンは目指すべき姿や取組みの方向性、推進するための仕組みづくりを示すものであることから、実現に向けた具体的な取組内容は別資料として作成することとしました。また、スマートシティの推進状況を把握・共有するための手段として指標を設定し、かつ、指標もビジョン内には設けず、別資料として作成することとしました。

その上で、推進ビジョン原案を俯瞰しながら、各項目の内容について、市民の共感を呼び、自らの役割を認識しながら、行政とともにまちづくりを進めていくために必要な観点や表現等について議論を重ねた結果、下記のとおり意見を付すとともに、推進ビジョン原案に意見を反映させ、別添のとおり「(仮称)スマートシティ推進ビジョン原案(意見反映版)」を取りまとめるに至りました。

【推進ビジョン原案への意見】

1 表紙

○市民中心であることを強調するため、副題を工夫することが望ましい。

2 策定趣旨

○スマートシティをイメージしながら自分事として受け止めてもらうため、地域・市民・企業の主体性や関わり方を見せることが重要である。

○より市民の共感を得られる内容にするため、日本全体の白書のようにならないよう千葉市らしさを意識するとともに、千葉市の強み・弱みを分析し、強みをどう伸ばして弱みをどう補うのかが表現されていることが求められる。

○市民の胸に響くような内容にするため、より千葉市らしさを打ち出したり、スマートシティに取り組む必要性やメリットを強調したりすることが望ましい。

○市民へのメッセージとして、千葉市は今までもテクノロジー活用を先導していること、時代の変化を踏まえてもっと成長していくこと、他自治体を先導していくことを伝えられると良い。

3-1 基本的な考え方(千葉市が目指すスマートシティ)

○市民がイメージしやすく、記憶に残りやすいものとするため、目指す姿はキャッチフ

レーズのように端的に表現した上で、それを補足する文章を列記することが望ましい。

- 市民が主役であり、市民とともに作り上げていくまちであることを伝えるため、そのための手段となるテクノロジーは、市民が意識することなく自然と活用されているような表現にすることが望ましい。
- データ社会という表現は、市民に冷たく受け止められる傾向があるため、より市民の心に響くよう、多様な人が個々のあり方のまま、自分の幸せを追求できるという意味で利用される「最大多様性の最大幸福」のように、潤いや思いやりの要素を含めることが望ましい。
- 機能に焦点を当てているように読めるため、何がしたいのか、どこに行きたいのかを明確にして、どんなまちを目指すのかを表現できるとよい。
- 最適という表現は、解が1つであるような印象を受けるため、テクノロジーによって多様な選択が可能になり、一人ひとりが自己実現できるといった豊かさを表現できるとよい。
- 目指すスマートシティのイメージ図は、多様な属性を持つ人々のイラストを掲載し、多様な人々によってまちが支えられていくようなイメージが想起されるものが望ましい。

3-2 基本的な考え方（スマートシティ実現のための原則と重視する視点）

- 主語が行政か行政以外なのかで意味合いが変わるため、主語を意識して表現することが重要である。
- 脱炭素の視点は取組全般に係る重要な要素であるため、原則の中に自然環境との共存に関する理念を含めることが必要である。
- 分野横断・全体最適を推進するため、自治体間連携を意識することが必要である。
- 地域とともにまちづくりを推進していくため、千葉市を盛り上げようと熱い思いを持った市民が、点・線・面に活動できるような内容にすることが必要である。

4 取組みの方向性～5つのスマート～

- スマートという言葉は様々な解釈ができるため、検討の際は使用を避けることが望ましく、あわせてユーザー側の価値を意識することが重要である。
- 取組みの方向性を表現したサークル状の図の中心は、市民にイメージを持ってもらいやすくするため、みんながつくっていく、あたたかい、やさしいなど、すべての市民に当てはまる形容詞を入れることが望ましい。
- 市民の共感を得るためにも、取組みの方向性を表したサークル状の図の一番外周に記載されている内容は、何故その取組みを記載しているのか、データの裏付けがあるとよい。また、図の中心を「市民」とし、市民を中心として、スマートの広がり表現することが望ましい。

- ビジョン全体の整合性や完成度を高めるため、目指す姿から取組み方向性を検討した上で、再度目指す姿を確認するなど、上下を見比べる作業が必要である。
- 市民理解を得やすくするため、抽象的な表現だけでなく具体的な表現も求められるほか、5つのスマートの分類ごとに例示されている取組例について、他自治体で多く見受けられるような取組みは含まれているか、その分類に整理することは妥当なのかを改めて検討することが必要である。
- 暮らしがスマート！は市民の関心が強い分類になるため、目指す姿の中に市民ニーズの高い福祉や介護等の分野が記載されていると良い。
- 多様性や共生社会であることを伝えるため、暮らしがスマート！において、外国人やLGBT、男女共同参画の視点等が読み取れるよう、表現を工夫することが重要であるとともに、外国人との共生を意識し、取り組み例で多言語対応に関する取組みが例示されていることが望ましい。
- 産業活性化により税収が増えるなどの好循環に繋がるため、産業に関する記載も必要である。
- 新型コロナウイルス感染拡大により都心からの移住者が増えており、千葉市への移住者が増えることで雇用創出や人口増加に繋がる好機であるため、取り込む方向に政策検討できるとよい。
- 市民が市の魅力を感じる動機として、市民自らの経験によるものと来訪者等による情報発信によるものの双方が考えられるため、表現の工夫が必要である。
- 市の魅力発信は、市民が魅力に感じたことは SNS 等を通じて能動的に発信されるため、行政は市民が発信したいと思えるような景観や心地良さ、快適性等をビジュアル的な要素を含めた場を創出することが大切である。
- 市民をはじめとする多様な主体の参加を促進するため、市役所がスマート！にオープンデータをはじめ、情報プラットフォームのような市民参加のための仕組づくりや意識決定プロセスにおける情報共有の手法についても表現することが必要である。
- 共助のデジタル化が今後非常に重要になるため、共助の取組みを記載することが求められる。

5 推進体制・推進手法

- 千葉市は人口が多いことから、スモールスタートを強調したことは知恵を感じられて良いと思う一方で、行政がイニシアティブを発揮して推進する領域も存在するため、環境・医療・行政手続など、行政が主体的に推進する領域があることを明示する必要がある。
- 現場からボトムアップで取り組んでいくことは大事である一方で、スマート化のベースとなるオール千葉市での基本領域があるため、市全体の方向性や考え方に基づく取組みや、共助を含めた民間と連携するためのプラットフォーム形成等をどうしていくのかを記載することが望ましい。

- 地域住民との連携・協働に当たり、高校生や大学生等は核心を突いた発言を得意としているため、学生を巻き込んで取り組むことが重要である。
- スモールスタートは展開が早い反面、大々的にプロモーションを行って推進する方法と異なり、市民への周知や合意形成が課題になるため、プロモーションの工夫が必要である。
- メディアや有識者に市の取組みを取り上げてもらうことで、職員のスマートシティに関わろうとする気持ちが高まり、内部調整がしやすくなるため、推進手法の一つとして有効である。

6 ロードマップ

- テクノロジー感が強い印象を受けるため、テクノロジー感を低減させるような表現が求められる。
- 分野横断・全体最適の観点から、他自治体との連携が重要になるため、全市展開に留まらず、自治体間連携まで記載することが重要である。
- データやテクノロジー活用は、サービス視点だけでなく、合意形成プロセスにおいても、対話が生まれる起点になったり、アイデアや認識を繋いだりするなど、重要なツールとなるため、その視点での記載も必要である。
- 20年後のイメージとしてSociety5.0の記載をしているが、その頃には利用されていない表現であると思料されるため、表現の工夫が必要である。
- 最終的には、市民の安心感を得るため、環境面を含めてどのようにウェルビーイングを実現するのかを表現できるとよい。

IV 結びにかえて

新基本計画審議会スマートシティ部会は、市から示された推進ビジョン原案の記載内容について、私たちの日々の活動の中での意見や国内外の取組事例、市民目線の観点から、限られた時間の中で可能な限りの審議を行ってきたところであり、市においては、本答申に示すところのスマートシティ部会の意見や推進ビジョン原案（意見反映版）の内容をしっかりと受け止め、自らのものとする中で、活かすべき部分、さらに発展させるべき部分、改めるべき部分を明確化し、より一層市民の共感を得て、実行に繋がる推進ビジョンを策定してもらいたいと考えています。

少子高齢化や地球温暖化に伴う気候変動等の課題に加え、新型コロナウイルスの感染拡大という、これまで経験したことのない危機に直面している今だからこそ、行政のみならず、市民をはじめ多様な主体が一丸となってこれらの課題等に立ち向かい、ともにまちづくりを行うことが求められます。そのために、加速度的に進展し続けるテクノロジーの活用は有効ですが、テクノロジーは手段に過ぎないことを常に念頭に置き、取り組むことが重要です。

なお、千葉市は全国をリードする形でICT活用を推進しており、これまで培った知見やコミュニティを活用できる強みがあり、市民をはじめ多様な主体と一体となって取り組むための素地はできているものと考えます。

本推進ビジョンが多くの市民等の心に響き、目指す姿を共有する中で、実際の行動につながり、千葉市にしかできない、「みんなでつくる快・適なまち」が実現されることを強く願い、本答申の結びに替えます。